

# 入試に関する Q&A

いよいよ入試本番間近です。とは言っても初めての入試には耳慣れない用語や疑問も多いものです。

そこで、入試に関する疑問をQ&A形式で紹介します。

## Q. 1

もし事故や病気などで共通テストが受験できなくなったら？

## A. 1

事故や病気などのアクシデントが起きた場合は、受験生本人または代理人が、速やかに「受験票」に記載されている「問い合わせ大学」に行き、申請すれば追試験を受けることができる。申請の受付時間、詳しい方法等については、受験票・写真票等と一緒に送付されている「受験上の注意」に明記されている。なお、2021年度大学入学共通テスト第1日程の追試験は1月30日(土)・31日(日)に実施予定。第2日程の追試験は、2月13日(土)・14日(日)に実施予定。

## Q. 2

共通テストの得点調整とは？

## A. 2

共通テスト終了後、大学入試センターでは、各教科で選択科目ごとに平均点を算出する。その平均点に原則として20点以上の差が生じ、それが試験問題の難易差に基づくものと認められた場合には、平均点が低い科目を受験した受験生が不利にならないよう、得点差を調整する。なお、2021年度共通テスト第1日程の得点調整実施の有無の発表は1月22日(金)の予定。第2日程の得点調整実施の有無の発表は、2月4日(木)の予定。

## Q. 3

国公立大の出願はいつ行うのか？

## A. 3

国公立大の出願は1月25日(月)～2月5日(金)の間に行う(一部異なる日程の大学があります)。出願する可能性のある大学の願書は、当然それまでに取り寄せておかなければならないので、早めの準備が必要である。

また、出願校決定には、自己採点結果が唯一の手がかりとなる。確実な出願校決定のためには正確に自己採点することが重要である。

## Q. 4

「志願倍率」、「実質倍率」の違いとは？

## A. 4

ひと口に倍率といっても「志願倍率」と「実質倍率」の2種類がある。「志願倍率」とは、「志願者数÷募集人員」のことで、志願者とは実際に大学に出願した人のことだ。「志願倍率」では、その大学の人気度がわかる。一方「実質倍率」は、「受験者数÷合格者数」のことで、実際の試験での競争率がわかる数字となっている。

出願はしたものの、試験当日までに第1志望校の合格が決まった受験生などは受験しない場合があり、「志願者数と受験者数が違う」といったことが起こる。また、入学辞退者を見込む大学は、募集人員よりも多めに合格者を発表するため「募集人員と合格者数が違う」ということも起こる。このように「志願倍率」と「実質倍率」では数値も意味も異なるので、単に「倍率」といった場合には、どちらの倍率を意味するのか注意が必要である。

## Q. 5

大学は何校まで出願できるか？

## A. 5

国公立大一般入試(一部異なる日程の大学があります)の場合は、前期・中期・後期の各日程から1つずつ、最大3つの大学・学部への出願が可能である。また、私立大などは、試験日程が重ならなければ出願に制限はない。第1志望校を中心に、うまくスケジュールを立てて出願校を考えたい。

## Q. 6

「二段階選抜」とは？

## A. 6

一部の国公立大で行われる選抜方法のこと。個別学力検査の前に共通テストの成績などにより第一段階選抜が行われ、合格者のみが個別学力検査を受験することができる。志望校が二段階選抜を行うかどうか確認する必要がある。

保護者の方は、受験を控えたお子さんの環境をできるだけよいものにしたいと思っていらっしゃることでしょう。そこで、以前にお子さんの受験を経験された保護者の方の「受験生への接し方」をご紹介します。

子供が「SOS」を出したときに、  
周りの人みんなで支えました。 埼玉県 K.N さん

センター試験の結果がよくなかったのか、試験後は落ち込んでいました。数日間は勉強が手につかなかったみたいですね。いつもは明るい子なのに、このままでは合格は危ないと思い、単身赴任の父親や大学生のいとこなどに連絡して、電話で励ましてやってくれないかとお願いしてみました。父親は「失敗を恐れず気楽にやればいいじゃないか」と言ってくれました。いとこは「合格したら一緒に海外旅行に行こうよ」と言って、やる気にさせてくれたみたいです。親の力では勉強面のサポートはほとんどできませんが、精神的な面では支えられる力は大きいはずですね。普段はできるだけ平常心を装い、子どもが「SOS」を出したら、周りの人たちが支えてあげればいいのかではないでしょうか。

食事を通して親子のコミュニケーションを  
図りました。 兵庫県 A.O さん

息子は12月の初めに夜型から朝型に切り替えました。私も息子が生活のペースをつかみやすいように、毎日の食事を決まった時間に作っていました。私が息子の受験のために特別にしてあげたことは、食事作りくらいですね。受験が迫ってくると、風邪をひかないように栄養価の高いものを考えながら作っていました。そのせいか受験も順調だったようです。息子も「僕が合格できたのもお母さんのご飯のお陰だな」と言ってくれました。食事のことでよかったと思うのは、それにより息子とのコミュニケーションが図れたことです。受験勉強が忙しくなってくると子どもと話をする時間は少なくなってしまうので、食事時には努めて話をするようにしましたが、お互いに考えていることがわかり合えたり、息子も会話をすることでよい息抜きになっていたようです。

常に親子で行動したことが  
よい息抜きに。 兵庫県 H.S さん

私と娘は小さいころからウマが合うというか、よく一緒に行動していました。受験勉強の参考になればと私の経験を聞かせたりして、アドバイザー役を務めたこともあります。父親は地元の大学を勧めたのですが、娘は東京にある難関大を志望したので考えがぶつかることに。そこで「お父さんを説得するには成績を上げるしかないわよ」とアドバイスすると、目の色を変えて勉強するようになりました。でも、頑張り過ぎて精神的に余裕をなくしてはいけないと思い、リラックスさせることにも努めました。センター試験が終わった日は喫茶店で会話を楽しみましたし、試験の前と一緒に買い物に行ったりもしました。また、大学の下見にも同行し、受験当日も門までついて行きました。親子で一緒に行動することで娘には励みになり、よい息抜きになったようです。

子供がやりたいように  
見守ってあげました。 大阪府 S.I さん

すべて本人のペースに任せることにしていました。親は心配してつい口を出したくなりますが、じっとこらえるようにしたのです。こうした親の態度が子どもに合ったのか、成績は常に安定していました。年が明けてからも家庭環境を少しでもいい方に保つこと、いつも優しいまなざしで接することを心がけていました。でも受験が近づいてくると、子どもはなぜか携帯電話で友達と電話ばかり。私も気になって、つい「それでいいの？」と言ってしまいました。本人にとってはそれが最大の息抜きになっていたようでした。電話をしていないときは、頭を切り替えてじっと机に向かっていたから。結果的には、それが一番よかったみたいですね。受験は本人の頑張りにかかっていますが、親は信頼して見守ってあげることが何よりも大事だと思います。